

厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
(総括・分担) 研究報告書

新型コロナウイルス感染症による他疾患を含めた医療・医学に与えた影響の解明に向けた研究
-今後の新興感染症発生時の対策の観点から-
(21HA2011)

臨床内科部門の研究の立案とデータ解析

① 臨床内科グループ

研究分担者	山口聡子	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座	特任准教授
研究 19			
研究分担者	山口聡子	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座	特任准教授
研究協力者	岡田啓	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・生活習慣病予防講座	特任講師
研究分担者	南学正臣	一般社団法人日本医学会連合	理事
研究分担者	門脇孝	一般社団法人日本医学会連合	副会長

研究要旨

新型コロナウイルス感染症の拡大の内科診療に対する影響について、複数の病院から収集された DPC データおよびレセプトデータを含むデータベースを用いて俯瞰的に評価した。第 1 波では内科系の入院、外来ともに大きな減少がみられ、特に小児科の診療領域および呼吸器疾患の減少が目立ち、この傾向は第 4 波以降でも継続していた。また、内視鏡検査およびリハビリテーションの減少が遷延しており、診断の遅れやフレイルの進行が懸念される。

① 臨床内科グループ

研究 19. データベースを用いたコロナ禍の内科系診療に対する影響の評価

A. 研究目的

病院ベースの DPC データおよびレセプトデータを含むデータベースを用いてコロナ禍が内科系の入院および外来診療に与えた影響を評価す

る。既に 2020 年 11 月までの第 3 波の途中までの期間について解析し発表した (Yamaguchi et al, BMJ Open, 2022)。本研究では第 4 波以降について解析を行う。

B. 研究方法

2017 年 1 月から 2022 年 9 月までの期間の複数の医療施設におけるレセプトデータおよび DPC データを含む市販データベースを用いて、第 4 波

以降の内科系の入院診療、外来診療、処置について、コロナ禍前との比較を行う。

(倫理面への配慮)

匿名化された市販データベースを用いており、同意の取得は不要である。本研究計画は東京大学の倫理委員会で承認されている(2018030NI)。

C. 研究結果

既に報告した通り、第1波の際には入院件数、外来件数ともに大きな減少がみられ、診療科別では特に小児科が減少しており、疾患別では呼吸器疾患が著減していた。

小児科の入院件数、外来件数の減少は第4波以降も2021年夏のRSウイルスの流行期をのぞき継続していた。呼吸器疾患の減少も継続していた。

その他の内科系では、2021年末のデルタ株の流行期までは影響が限定的であったが、2022年のオミクロン株の流行では入院件数の減少がみられた。

上部内視鏡検査、下部内視鏡検査、気管支鏡検査および外来リハビリテーションは、第4波以降でもコロナ禍前と比較して減少がみられた。

D. 考察

第1波で内科診療に対して大きな影響がみられたが、その後は2021年末までの影響は限定的であった。オミクロン株の流行により再度影響が増大した。特に内視鏡検査やリハビリテーションについては減少が遷延しており、長期的な影響が懸念される。

E. 結論

コロナ禍の内科系診療に対する影響を俯瞰的に評価した。内視鏡検査やリハビリテーションの減少が遷延しており、診断の遅れやフレイルの進行について注意が必要である。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

なし(論文準備中)

H. 知的財産権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし